



ボランティアを活用したサル対策の推進 ～香美町小代区実山集落の取り組み～



地区の概要

全戸数	25戸
農作業従事戸数(家庭菜園含む)	20戸
専業農家	0戸
農地面積	
生産目的	ほぼ自家用
集落営農	無
生産組合	無



香美町小代区の実山集落は氷ノ山の豊かな自然に囲まれた小規模な集落。付近に生息するサルの群れの出没が多い地域で、サルに有効な電気柵「おじろ用心棒」の設置等に取り組んでいる。

これまでの対策

- 2002年頃** 防護柵の設置
イノシシ用電気柵を集落の周囲に設置。
- 2005年頃** 不要果樹の伐採
各戸で不要な柿の木を伐採したり、グミの木などを伐採したりサルの餌となっている不要果樹の伐採に取り組む。
- 2008年** サルぼい犬導入
区内で1頭が認定を受け活躍
- 2009年** 「おじろ用心棒」の設置・獣害レンジャー活用
ボランティアを活用して電気柵設置率を高める
- 2011年** 集落での捕獲 農会長が狩猟免許取得。

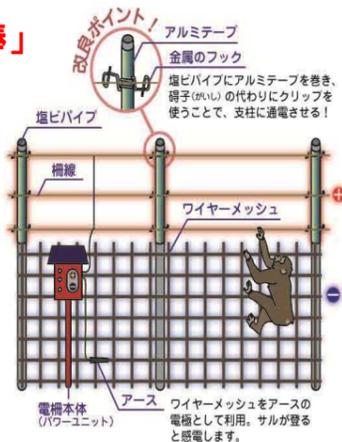
ここに注目！

獣害レンジャー（ボランティア）の協力を得て、サルに有効な電気柵「おじろ用心棒」の設置を推進！！



通電式支柱「おじろ用心棒」

鳥取県開発「シシ垣くん」を改良



電気柵設置作業の様子



ボランティアとの交流風景

不要果樹対策

5～6年前から柿の木やグミの木はサルが出てくるので各戸で自主的にだいぶ切った。昔はどこの家にもあったが、当時に比べると半分くらいになった。

追い払い

サルを見かけたら各人が追い払っている。サルぼい犬(サル追い払い犬)を導入している方も。



電気柵



集落周囲にイノシシ用電気柵を設置。冬季は外すが、設置期間中はよく効いている。

成果について —地区へのインタビューより—

柵を張る前は、カボチャやトウモロコシが収穫できるようなことがなかった！



今年はサルから守れた！

昨年設置した柵のおかげでその後はサルはいっぺんも入ったことがありません。昨年と今年は十分収穫できました。これのおかげでサルは素通りして村の中に入ってこなくなりました。実山は限界集落のおかげで早めに柵を設置してもらえ、ボランティアの人も来てくれて、にぎやかな時を過ごしました(2011/8/12)。

センター講評

山間部の小規模集落で、サルが最もよく出没する地域でしたが、「小規模集落元気作戦」(県事業)による元気な村づくりの一環として、ボランティアの力を活用してサル用電気柵の設置率を高めた結果、最近では、群れの実山地区への出没が大きく減少するなど大きな成果が得られています。

